

栗山町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

栗山町は、道都札幌市まで1時間の道央圏に位置し、隣接する岩見沢市、夕張市、由仁町、長沼町とはJRもしくは民間路線バスが運行し、地域をつないでいる。

町内の公共交通は、平成2年に民間バスの撤退により、町営バスの運行を始めたが、人口減少や自家用車の普及に伴う利用者の減少、燃料費の高騰などによる運行経費の増嵩など町営バスの運営は厳しい状況である。

しかしながら、交通弱者といわれる高齢者等の交通手段は必要であり、町営バスはとりわけ南部地区と病院や商業施設などが集中する栗山市街地を結ぶ必要不可欠な路線である。

平成20年3月に「栗山町地域公共交通活性化協議会」を設置し、持続できる効率的な新しい公共交通システムを構築するために「地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成21年から3年間デマンドバスの実証運行を行ってきた。

地域内フィーダー系統確保維持計画の目標・効果

【目標】

人口減少の実態を鑑み、利用者数を平成23年度実績の水準を維持する。
(滝下線年間利用者数 2,832人、日出線年間利用者数 584人)

【効果】

- ・南部地区の高齢者等が通院、買い物など生活に必要な交通手段が確保される。
- ・文化やスポーツ、学びや交流など、生きがいを持って暮らすための活動を支える足が確保され、地域活性化につながる。
- ・小型ワゴンバスによるデマンド運行により、効率的な運行と利用者サービスの向上が図られる。
- ・札幌、岩見沢などの地域間を結ぶ鉄道やバスとの連携が図られる。

平成25年度事業概要

滝下線 栗山～滝下 23.9km デマンド運行
日出線(大井分経由) 栗山～大井分～継立～日出 18.8km ※継立～日出間 デマンド運行
日出線(桜山経由) 栗山～桜山～継立～日出 21.0km ※継立～日出間 デマンド運行
日出線(杵臼経由) 栗山～杵臼～継立～日出 18.8km ※継立～日出間 デマンド運行

地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線(栗山駅)
- ・中央バス(株)(都市間高速バス2路線)
- ・夕鉄バス(株)(都市間バス2路線)
- ・町営バス(町内6路線)
- ・スクールバス(町内4路線)

栗山町地域公共交通活性化協議会開催状況

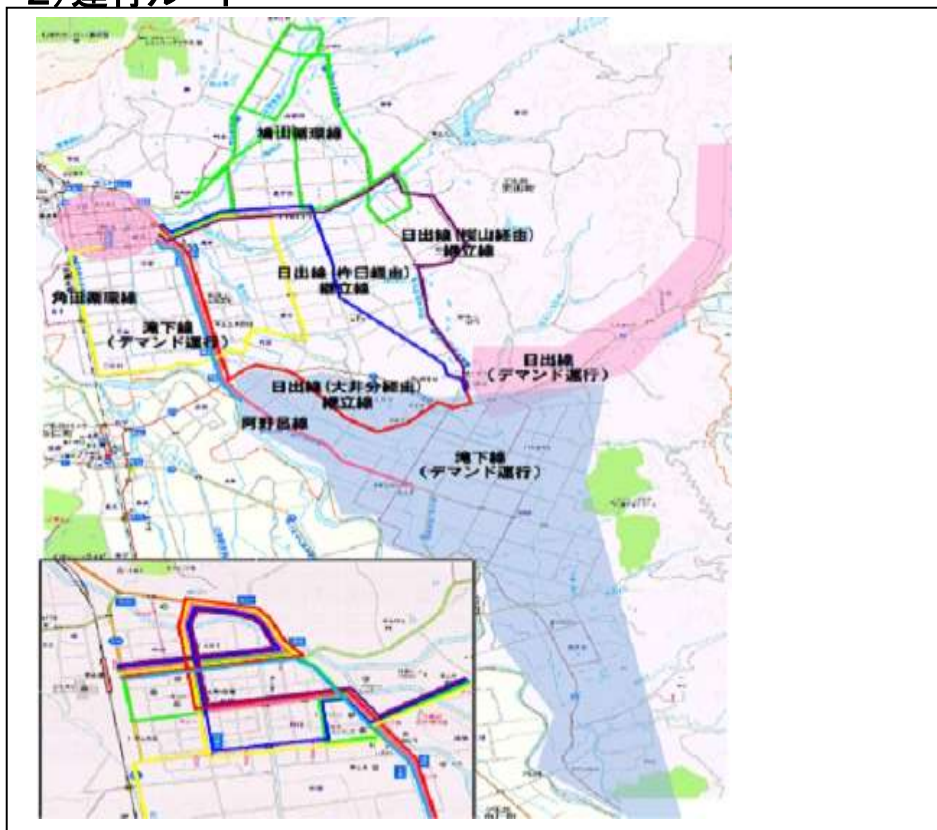
- 平成24年6月25日 第1回協議会を開催
- ・地域内フィーダー系統確保維持計画

平成25年度事業の実施状況

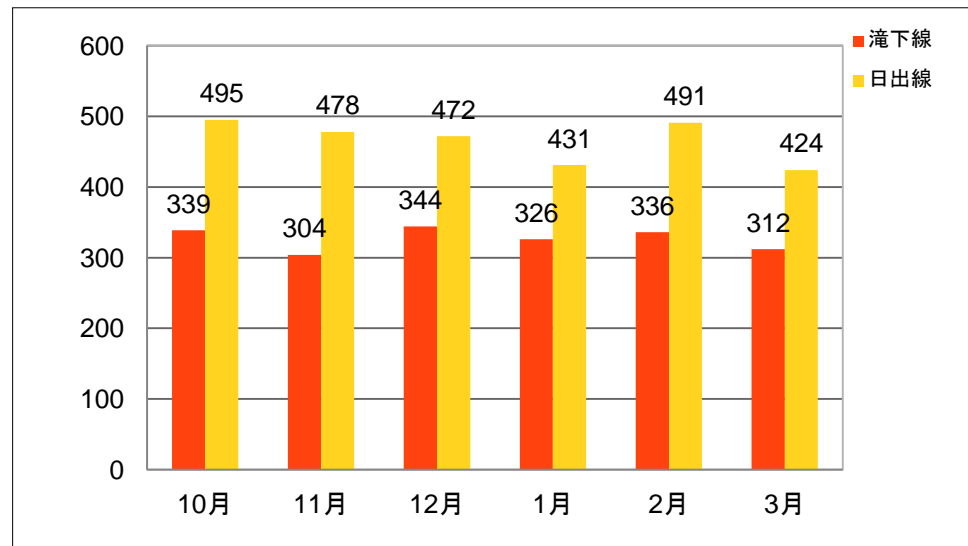
1) プロセス、創意工夫

- 平成21年度から3年間 デマンドバス実証運行の検証から見直し
- ・滝下線 滝下～継立間のデマンド運行。栗山市街地へは栗山継立線に乗換。
→滝下から栗山市街地への直行便に変更した。(滝下～阿野呂間をデマンド区間)
- ・滝下線 大型バスによる運行 → 小型ワゴンバスに変更した。
- ・日出線 日出～継立間のデマンド運行。栗山市街地へは栗山継立線に乗換。
→日出から栗山市街地までを一路線として運行。乗換をなくした。
- 予約の受付 継立町内連合会→運行事業者に変更。受付時間を延長。(土日も可能)
- 地域説明会 運行路線見直し前に2回実施。利用者から意見聴取の実施。

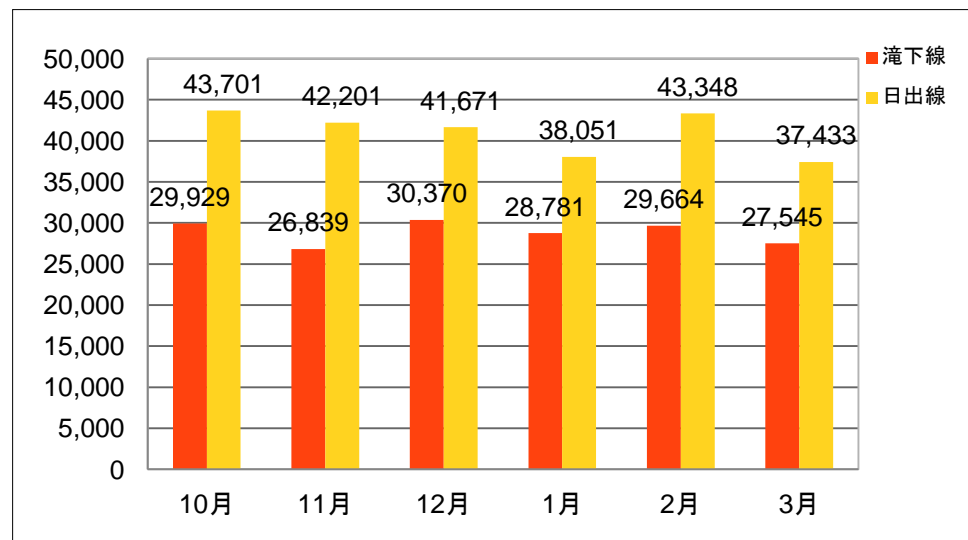
2) 運行ルート



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり、事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

平成24年10月から平成25年3月までの半年間の利用実績は、目標である平成23年度実績(平成23年10月から平成24年3月)を上回っており、南部地区の高齢者等の生活を支える交通手段を確保するとともに効率的な運行に効果があったものとする。

滝下線 目標1,465人に対し、実績1,961人

日出線 目標252人に対し、実績2,791人

特に、滝下線の運行路線の見直しと小型ワゴンバスによる運行及び日出線の運行路線の見直しと一部デマンド化は、利便性の向上につながった。

7) 事業の今後の改善点

人口減少、農村部における過疎化が進む現状においては、利用者数の維持は厳しい状況であるが、利用者ニーズを把握し、サービスの向上に努めるとともに、より効果的・効率的な運行に向けて取り組んでいく。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。

特に、効率的な運行や利便性の向上により目標を大きく超えている路線があることは非常に評価できる。

今後は、今年度実績を踏まえた適切な目標値の再設定と更なる利用者ニーズの把握や町内の交通事情を踏まえた検討を行い、持続可能な事業となることを期待する。